

民俗芸能伝承に係る取組状況

(ふりがな) 民俗芸能名	(とっとりかさおどり) 鳥取傘踊り		
保存団体名	釧路鳥取傘踊り保存会		
保存会員数の推移 (うち小・中・高生)	H20. 10	H25. 10	H30. 10
	20人 (20人)	18人 (18人)	20人 (20人)
子どもたちに対する伝承活動の内容 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>これまでの経過 取組内容 取組体制 学校との連携 保護者との連携 指導方法 指導会場 指導頻度 などを記入</p> </div>	<p>明治17, 18年に鳥取県池田藩士族105戸513人が開拓移住し、その縁で昭和38年に無形民俗文化財「因幡の傘踊り」の技術と傘が贈られ、釧路鳥取傘踊り保存会が継承しました。のちに、鳥取小学校、鳥取西小学校、鳥取中学校より依頼を受けて傘踊りの由来と踊りの基本を教えています。</p> <p>会場は、各学校の体育館を使用し、鳥取小学校では運動会において傘踊りを披露しています。</p>		
伝承活動を継続する上での工夫	傘踊りの基本として姿勢を正し、両足の重心のかけ方や傘の枝の上にあるロクロを見て踊ることを指導しています。		
伝承活動を継続する上での課題	毎年、児童の保存会への加入が減少していますので、ポスターや学校での傘踊り指導の折に、先生を通じて保存会員の募集をしています。		
発表機会 ※年間の発表回数と発表会場を記入 (過去3年分)	多来福祭り、おもてなしグルメ、滝祭り、ラーメンフェスタ、リバーサイドフェスタ、釧路ユースフェス、コア鳥取祭り、鳥取神社祭、釧路管内郷土芸能祭		

郷土芸能「釧路鳥取かさ踊り保存会」

明治17・8年に、鳥取県池田藩の士族105戸、513人が、北海道釧路に開拓移住し、鳥取村を興し、極寒の地において、幾多の苦節や困難と斗いながら、こん日の釧路市鳥取町の繁栄の基礎づくりに貢献したことから、昭和38年に「釧路市・鳥取開基80周年」の記念として、移住者の子孫にあたる釧路市鳥取町の住民に、鳥取県鳥取市長より、無形民俗文化財「^{イナバ}因幡の傘踊」の技術と傘が贈られ、「釧路鳥取かさ踊り保存会」が継承し、以来、釧路市の郷土芸能として踊り継がれております。

一方、「姉妹都市（鳥取市）との友好と親善に貢献すると共に、釧路市と鳥取市との文化交流に大きな役割りを果たし、郷土愛と情操教育に寄与し、釧路市の郷土芸能として活躍を続けている」ことを評価され、昭和67年度釧路市文化奨励賞を受賞。

釧路市の年間主要行事であります、釧路港まつり、

鳥取神社祭典等をはじめ 北海道内の各種行事に参加すると共に、地元の小・中学校等、園児・児童・生徒に対する、指導と育成をおこなっております。

釧路鳥取かさ踊り保存会

会長

1. かさ踊りの始まり

その昔、徳川幕府のとき、鳥取県が^{いんぱん}因幡と云われた時代に大干ばつがありました。あちこちで農民達が、雨乞いの行事を行いました。中でも、五郎作という老農夫は、かんむりかさをかざして三日三晩踊って祈願したところ、三日目の夜、大雨が降って大干ばつから救われました。しかし、五郎作は踊りの疲れから帰らぬ人となりました。村人達は大変悲しみ、その年のうら盆から村中総出で、かさをかざして踊ったのが始まりでした。

2. 因幡のかさ踊りの^{いさま}変遷

徳川時代から、明治一大正一昭和と、数百年の歴史をたどる中で、かさはかんむりかさから、長柄に美しい飾りをつけたかさとなり、唄も踊りも磨きがかかり、昭和二十七年には、文部省からその価値を認められ、「無形文化財因幡のかさ踊り」として指定され、鳥取県の郷土芸能として全国に有名になりました。

3. 釧路市の郷土芸能となった^{いさま}経緯

今から四十年前、昭和三十八年、釧路市と鳥取市は姉妹都市の縁組を結びました。

その時、当時の鳥取市長、高田勇さんが「因幡のかさ踊り」の名手であったことから、

「是非、縁組の記念にかさ踊りを教えてほしい」と要請したところ、「かさと踊り」を寄贈していただきました。

以来、「釧路かさ踊り保存会」を作って、鳥取市との交流を深めると共に、釧路の郷土芸能として発展させて参りました。